

## 令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	掛川特別支援学校 御前崎分校PTA
学 校 名	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	35人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	プロジェクター
使用学年及び人数	1～3年 35人(全校生徒)
使用頻度	授業内容、活動内容によっては、毎日使用することもある。
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語・数学、職業、美術、総合的な探求の時間等の授業での使用 …各学年毎週2～3回</li> <li>・音楽部での使用(映像を見ながらダンス) …職場実習等の予定がなく実施した場合 月に2～3回</li> <li>・学部集会、職場実習報告会、終業式、オープンスクール等 …学期に3～4回 全体の場で使用</li> </ul>
物品の使用による 変化や効果	<p>授業での使用については、台数が増えたことにより、各学年での使用頻度が上がっている。視覚的支援であるプロジェクターを活用することは、生徒が授業内容について、より理解を深めるために有効であった。写真や動画を活用することで、生徒が興味を持って授業に取り組む姿が見られたり、授業の中では、生徒が自分で作った動画やパワーポイントをみんなの前で発表したりする場面が増えた。</p> <p>また、書き込み機能を使って、スクリーンに映し出した画面に注目させたいところに○や線を書いたり、言葉を書き込んだりすることで、プロジェクターの使い方も昨年度よりも広がってきている。</p>
今後の活用の 見通しや課題	<p>プロジェクターを使用し、パソコンやipad画面を提示しながら行う授業が増えてきている。プロジェクターの書き込み機能については、授業の中で活用している教員もいるが、まだ少ない。授業の中でプロジェクターをより効果的に使用できるように研修を行い、さらなる有効な使い方を考えていきたい。</p>
その他 希望や所感など	<p>今後も授業においてパソコンやipad等の情報機器とプロジェクターを活用し、画面を見ながらの発表や話し合いなど協働的な学習方法を考えていきたい。</p>

## 2. 活用の様子



販売会決起集会(学部集会)



書き込み機能を使いながら授業を行う